

— 世良田小学校の児童たちが紹介する —

# 世良田祇園まつり

## ガイドブック



太田市1%まちづくり事業

ガイドブックを見て世良田祇園まつりへ行こう!!



## ごあいさつ

世良田祇園まつり実行委員会

会長 相澤 邦衛



このたび気軽に読めて、しかも世良田祇園まつりをより多くの人に理解していただくために「世良田祇園まつりガイドブック」を発刊いたしました。この冊子は祇園まつりの歴史

入門的なもので世良田小学校の6年生の協同研究の作品です。

小学生から見た祇園についての興味・関心、願い等が収められております。紙面の都合もあり内容や記述もわかりやすさを中心に作成されております。

この冊子を通して、かつての関東三大まつりの一つとしての賑わいを見せた世良田祇園まつりの今後の活性化に向けてのよき友として活用していただければ幸いです。

おわりに、本冊子の作成にあたっては世良田小学校川上校長始め諸先生方、地域の歴史に精通している小此木・楢原・金子諸先生方、その他関係者のご尽力により発刊することができましたことに深く感謝申し上げあいさつとします。

## ごあいさつ

太田市教育委員会

教育長 岡田 孝夫



このたび、400年以上の歴史と伝統を誇る太田市世良田地区の夏祭り「世良田祇園まつり」のガイドブックを子どもたちの目線で分かりやすく解説した冊子が生まれたこと

は、とても喜ばしく心よりお祝い申し上げます。

世良田祇園まつりは、「関東三大祭り」と呼ばれ、かつては神田の明神祭り、秩父の妙見祭りと並び関東の三大祭りの一つで、大変賑わったお祭りでありました。現在、屋台が8台あり、全て太田市指定の重要有形民俗文化財であるわけではありますが、この数年で復元修理を完了し、絢爛豪華な屋台として甦り、かつての関東三大祭りの一端を偲ばせる祭りとして再現されつつあります。

このような折り、次代を担う子どもたちがガイドブック制作に挑戦し、世良田祇園まつりの歴史を学び、祇園囃子を覚え、伝統行事継承者になったことは大変うれしいことです。

これからも関東三大祭りへの復活を目指して、皆さんでPRに努められることを期待します。



## 目次



このガイドブックを作った目的ってなあに？	1
変わってきたお祭りの歴史	2
屋台の彫り物の必見ポイント	6
屋台の材料は何だろう？	9
屋台の並び順と運行経路	10
屋台の組み立て方	12
屋台の新発見	14
平成21年度の屋台修復工事と費用について	16
屋台引きと方向転換	17
おはやし	18
おみこしとは？	20
おみこしの種類	21
おみこしの通り道と休憩所	22
おみこしのお渡しとは	23
お祭りと八坂アメ	24
お祭りの風習	26

屋台彫刻・装飾・各部の名称	27
ガイドブック制作の感想	28

### 資料編



世良田八坂神社と 世良田祇園まつりの歴史	32
昭和25年代(1950)の世良田祇園まつり	33
世良田祇園まつりの今と昔	37
世良田祇園屋台修理・制作年代一覧表	38
お祭り一口メモ	39
世良田祇園まつり実行委員会とは？	40
あとがき・作成者名簿	41
作成プロジェクト他	42



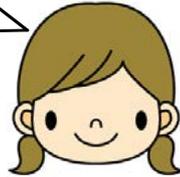
## このガイドブックを作った目的ってなあに？



ぼくは世良田小6年の当住（とうじゅう）です。音花（おとか）ちゃんと一緒に  
お祭りの歴史を調べるよ！



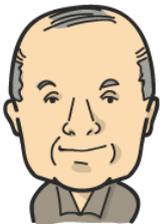
私は6年の音花です。お祭りで屋  
台に毎年乗っているの。もっと詳  
しくお祭りのことが知りたいわ。



私たちが住む太田市世良田  
地区は「鶴舞う形の群馬県」の  
首の部分にあたります。世良田  
には昔から伝わる八坂神社の  
祇園まつりがあります。

私たちは祭りの長い歴史や  
伝統を学び、次の世代に伝え  
ていくためにガイドブックを作  
ろうと考えました。

このガイドブックを読んで多  
くの人に世良田祇園まつりへ来  
てもらいたいです。



私の名前は世良田です。生まれ  
も育ちも世良田じゃよ。祇園祭  
りのことならまかせておくれ。

# 変わってきたお祭りの歴史



世良田祇園まつりは、いつから始まったの？



それはね1565年には、はじまっているんだよ。

長楽寺の住職さんが書いた『永禄日記』（1565年6月7日の日記）に記述があるんだ。

江戸時代になると屋台やみこしの記録もあるので、400年以上前からつづいてきたんだよ。

詳しい歴史は32ページを見ておくれ。



長楽寺永禄日記・群馬県指定重要文化財(長楽寺所蔵)

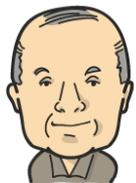


昭和15年 祇園まつり(世良田十字路)

## お祭りの願いや盛り上がった時の様子



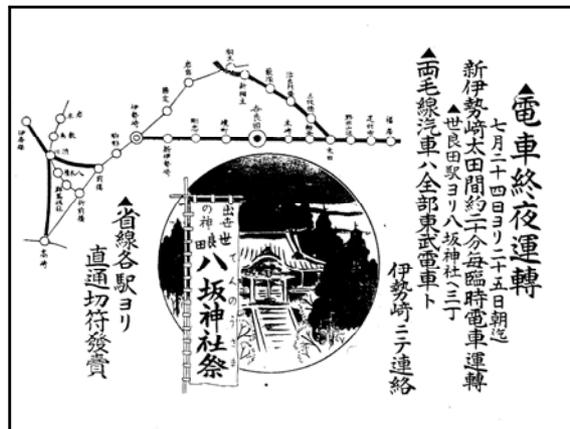
昔は医者がほとんどおらず、病気はやっても治す人がいなかったの  
で、八坂神社の神様においのりして、  
幸せに暮らせるようにお祭りを行っ  
たんだって。一番盛り上がった時は世良  
田の町は人でぎゅうぎゅうになったそ  
うだよ。



そうだね、東武鉄道の臨時電車まで、出たんだよ。江戸時代から昭和  
25年（1950年）頃まで世良田祇園まつりは関東の三大祭りの一つ  
と言われるほど盛り上がったそうだよ。（詳しくは38ページをみて



昭和15年当時の祇園まつり（世良田十字路）



臨時電車のポスター



今と昔ではお祭りの日が違うの？

いろいろお祭りのやり方は変わってきているよ。お祭りが始まった昔は古い暦が使われていたんだよ。その暦で6月7日から14日にかけて行われていたんだ。明治時代になって新しい暦（太陽暦）に代わってから、昭和30年代までは毎年7月24日、25日に大祭（たいさい）が行われるようになったんだ。

しかし、今ではお祭りを休日にやろうということになって、7月の第4土曜日と日曜日に開催しているんだよ。



昔より、だんだん人が少なくなってきちゃったね。なぜ、世良田祇園まつりがさびしくなったの？



昭和32年（1957年）に当時の世良田村が尾島町と境町に分かれて合併したんだ。

会社勤めの人達も増え、お祭りに参加する人も少なくなって、屋台は全部が集まらなくなり、この頃からお祭りが盛り上がりなくなってしまったんだよ。



そうだね、今では昔みたいにお祭りを盛り上げるために何かやっているみたいだよ。



世良田祇園まつり（昭和15年）



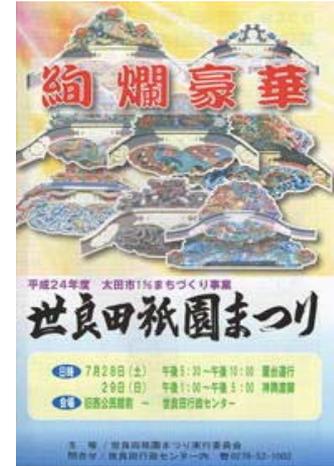
お祭りを盛り上げるために何をしているの？



3年前（平成22年）に実行委員会を立ち上げて、お祭りの復興のためがんばっているんだよ。

詳しくは40ページを見ておくれ。

平成24年度チラシ



### 復活した現在の祇園祭り 平成23年に復活した世良田祇園まつり



お祭りのPRライブ

今では8台すべての屋台が  
集まるんだよ。





# 屋台の彫り物の必見ポイント

## 1 上町



正面の彫り物は立派です。

## 2 上新田



木鼻(きばな)の二体の龍は迫力があります。



屋台の各部の名称については27ページを見てね！

### 3 今井



### 4 大門



### 5 新町



色が付いていないので  
ちょう刻がよくわかります。



元気がなくじゃくとほうおうの二  
羽の鳥がほられています。



破風のまるぼりの龍が見事  
です。

6 南八



7 下町



8 下新田



屋台のかざりとして、欄干（てすり）と腰羽目板（こしはめいた）があります。



懸魚（げぎょ）には見事な鶴が、ほられています。



木鼻に、龍でなく「ぼく」や「しし」がほられています。

# 屋台の材料は何だろう??



ねえねえ！前から気になって  
いたんだけど、屋台の材料は人が乗っ  
てもこわれなくてしょうぶだけどの  
材料を、使っているのかな？

ほくも、まえから気になってたんだー。  
じゃあ世良田さんに、聞いてみようよ！

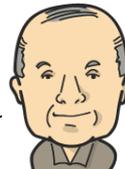


屋台の本体は杉を使っています。車輪は  
けやきで、しん棒はかしの木で、かざりは  
松の木やけやきなどでできているんだよ。  
だから、人が乗ってもしょうぶで、こわ  
れないんだよ。



世良田には屋台が何台あるの？

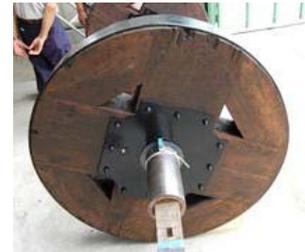
屋台ができた江戸時代には世良田には八つの町が  
あったので屋台も8台あるんだよ。祭りの日には  
女塚・境村・三ツ木から客屋台が来て、11台の屋  
台が集まったんだ。



松やけやきなど



けやき

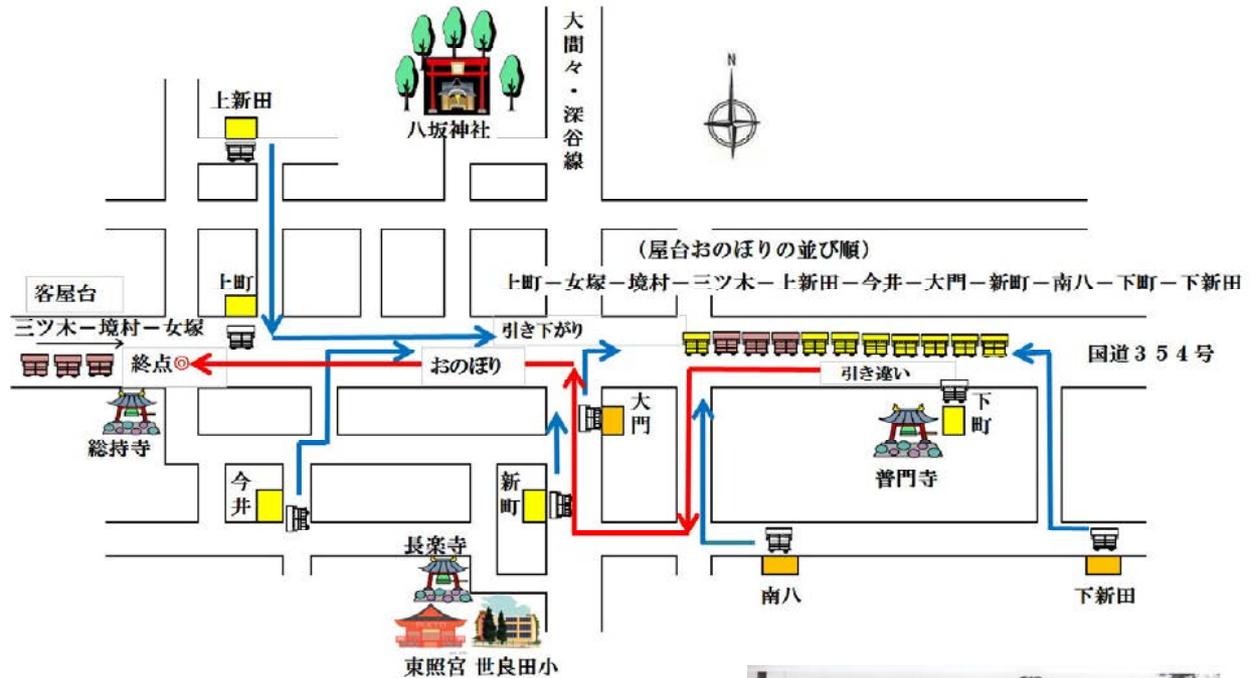


かし



# 屋台の並び順と運行経路

昭和25年頃の並び順と運行経路



屋台は8つの屋台と客屋台の3台が集まってから、いっしょに進んだり、もどったりだよ！



そうなんだよ。とても迫力があって興奮したんだ。



昭和30年頃の屋台運行風景



# 昔の屋台の組み立て方



ねえねえ。当住君！昔の屋台の組み立て方はどうやるのかな？いっしょに、タイムスリップしない？



いいね、ぼくもいっしょに行くよ！



昔はお祭りの前日の早朝に大太鼓の合図で大勢の人が集まって、協力して組み立てたんだよ。組み立て方は先輩たちが組むのを見よう見まねで引き継いでいったんだよ。



車輪と舟形土台の取付



柱立て・床部分組立



左右側面の欄間取付

## 屋台の組み立て 今はどうしているの？



今の屋台は昔と違い組み立てはしていないんだって。屋台庫に組み立てられた形で収納されているんだ。



屋根部分などの取付



破風の取付で懸魚や鬼板の取付



完成すると一同で御神酒を飲み手打ちをして組立の完成

# 屋台の新発見



今井屋台



今井の屋台が、屋台の中で一番大きいんだ。白木（しらき）作りで他の屋台とはちがうんだね。なぜだろう？



昔の屋台が火事で燃えてしまい、大正2年(1913年)に木崎仲町から屋台を買ったんだよ。だから他の屋台とはちがうんだ。代金は330円だったという記録もあるんだよ。



下町の屋台には天井に絵が描いてあるね。十二支の動物もあるよ。どんな意味があるんだろう。



この天井は、150年前の屋台修理の時に新しく造られたんだよ。岩絵の具なので今でもきれいだね。十二支の動物は人の生まれ年にもなっているのよ。全ての人の幸せを願っているんだよ。



下町屋台の天井絵



新町屋台の下座(げざ)



世良田さん、屋台に小さな小屋が乗っているけど何に使うの？



昔は屋台の上で芝居を見せたんだよ。この小屋みたいなものは下座(げざ)といって舞台の道具の一つなんだ。芝居をするときにこの中に人が入って、三味線をひいたり、節をつけて語ったりして、進行させたんだよ。



新町には、昔おぼうさんや頭のいい人がいっぱいいて、俳人がつくった句がたんざくに書かれているんだって。



そうだよ。花の咲いた桃の枝に青・白・黄など5枚の短冊が下げられているのが彫られていて、俳句がすみで書かれているよ。



新町屋台の下座の短冊(たんざく)

## 平成21年度(2009年)の屋台修復工事と費用について



屋台の修復っていつやったのかな？



江戸時代にできた屋台だから、いろんな所が傷んでいて、彫り物が欠けたり、屋台の色も落ちてしまっていたんだよ。

このままでは屋台が使えなくなってしまうので、平成18年度から21年度の4年間をかけて、8台全ての屋台が太田市によって修復されたんだよ。



屋台の修復費用はいくらくらいかかったの？



総額でおよそ8600万円もかかったそうだよ。欠けた彫り物は元のように直して、きれいに色をぬったので、新品のようになったよ。詳しくは、38ページをみてね。

修復前の写真 鬼板(おにいた)



色が落ちていて、彫り物もところどころがかけている



修復中の写真



いったん色を落とし、欠けている彫り物などをなおす



修復後の写真



きれいに色をぬって、できあがり

# 屋台引きと方向転換



大きな屋台だから引くのも大変だね。  
どうやって動かすんだろう？



屋台には前と後ろに太いつなが付いていて、前に行くときは前のつな、バックする時は後ろのつなを50人くらいで引っぱるんだよ。

また、屋台の周りには20名くらいの人が付いて、みんなで押して動かすんだよ。  
今では他の地区の人も屋台引きの応援に来るんだよ。



屋根の上の人は何をやる人？



屋台は5m以上の高さがあるので電話線や電線に引っかからないように見張っているんだよ。



どうやって屋台は曲がるのかな？



昔は何度も進む、下がるを繰り返して、少しずつ屋台の方向を変え曲がっていたけど、今はジャッキと回転盤（相澤 進さん考案）を屋台の前の部分に付けて、簡単に方向が変えられるようになったんだよ。



屋台引き



ジャッキと回転盤

# おはやし



おはやしを演奏する楽器の種類はどのようなものがあるのかな？



どのぐらいの種類があるのか世良田さんに聞いてみよう。



おはやしは、笛、大だいこ、かね、小だいこの4種類でやっていて、笛は、1本、かねは、2個から4個、大だいこは1個、小だいこは3個で1組になっているんだよ。



笛



かね



大だいこ



小だいこ



ふーん、そうなんだ。じゃあ、その音にはどんな特長があるの？

おはやしは、たいこ、かね、笛の構成でみんな同じだよ。だけど、曲の種類により、音色やテンポが変わるんだよ。



## おはやしの衣装や曲



じゃあ、おはやしを演奏する人たちはどういう衣装を着ているの？

おはやしをする人の衣装は、おそろいのはっぴなどをきているよ！



おそろいのはっぴを着ておはやしを演奏



おはやしの曲はどんなものがあるの？



おはやしの曲には、  
大間昇伝（おおましょうでん）  
鎌倉（かまくら）  
神田丸（かんだまる）  
参手古（さんてこ）  
地囃子（じばやし）  
武州囃子（ぶしゅうばやし）  
などがあるよ。



昔は、屋台のおはやしをする人たちが伊勢崎市や深谷市などからたくさん応援に来ていたけど、今は、子どもや大人がまじっておはやしを演奏している地区が増えてきたよ。

# おみこしとは？



音花ちゃん、そもそもおみこしって何のためにつくられたと思う？



たぶん、神様が乗るためにつくられたんじゃない



たしかにその可能性もあるかも



わからないから世良田さんに聞いてみよう！



音花ちゃん、君の言う通りだよ！  
おみこしとは神様が移動するときの乗り物だよ。  
祇園祭には隠居様と当住様と言う2台のみこしがでるよ。

# おみこしの種類



ねえ、八坂神社のおみこしって  
たしか4台あるんだよね。

そうだよ、でもぼくもそんなにくわしくないから  
世良田さんに聞いてみよう！



(大門町子供みこし)

(古鎮守様みこし)



(いんきょ様みこし)

(当住様みこし)

一番左のおみこしは大門町の子どもみこし  
で、二番目のおみこしは、古鎮守様の  
おみこしだよ。7月7日の七夕にかつが  
れていたんだが、今は、かつがれていな  
いんだよ。



三番目のおみこしは「隠居様」と言っ  
て、7月15日ころにかつがれるんだ  
よ。おみこしは町内を回ったあとお飯  
屋（お旅所）にとどまり、祇園まつり  
の夜に神社に帰るよ。  
四番目の一番大きなおみこしが「当住  
様」と言って祇園まつり当日にかつが  
れるんだよ。



# おみこしのお渡しとは



おみこしのお渡し（各地区を回る）とはどんなことをやるの？



世良田さんに聞いてみよう  
先生ー!! 先生ー!!



昔はおみこしを担いで各地区を回ったのだけれども、今では台車に乗せて、回るんだよ。  
おみこしが休けい所に着くと、担ぎ手の人達が台車からおみこしを担いでやぐらの上に安置するんだ。各休けい所では思い思いに神様におはやしを聞かせたり、スイカや赤飯、おまんじゅうなどを上げて、おもてなしするんだよ。また、地区の代表の人が神主さんからおはらいを受けて、地区の繁栄や安全を祈るんだ。  
おみこしは担ぎ手の人達が一休みしてから、また次の地区へお渡しになるんだよ。



# お祭りと八坂アメ



世良田祇園まつりでは昔から八坂アメが売られていたんだって？

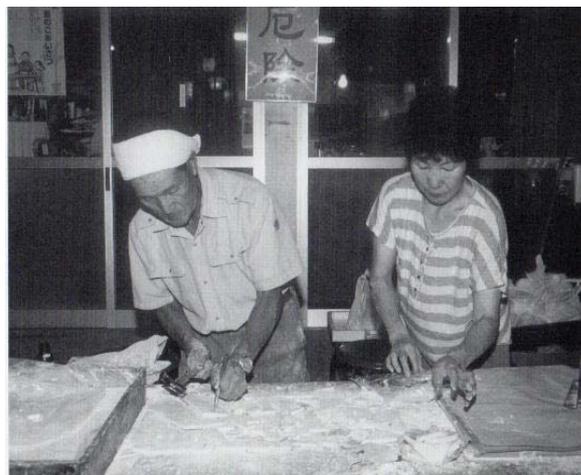


7月1日の早朝と祇園まつりの夜、神社境内で「カチ、カチ、カッチン」とかなずちの音を響かせてあめが売られる・・・

八坂アメは、およそ100年くらい前からあったと言われているよ。参道には名物の八坂アメを売る露店が並び、さんぱい帰りの人たちは、なめると病気になると言われたこのあめを買い求めたんだよ。

八坂アメは水アメをこねて白くしたものを平らにしたものなんだ。

やわらかくて溶けやすいので白い粉がたくさん付けてあるよ。



郷土出版社発行 『目で見ると太田・館林・邑楽の100年』より

へえ、そんな歴史があるんだ。八坂アメってすごいね！



アメを切る道具



祇園祭りでは、昔から八坂アメ  
がなめられていたんだよ！

へえ～そうなんだ。ところで八  
坂アメってどんな味なの？？



八坂アメは、少しやわらかくて、すご  
くあまくておいしいアメだよ！！  
でも、歯にくっついてしまうから  
注意してね。どれどれ、二人ともなめ  
てみるかい？



小さくだいた八坂アメ



ん！！ほんとだぁ！！あまくって美味しい！！  
あっ！！でも歯にくっついて、ちょっとなめづらいね。

おお！！ほんとうにあまくって美味しいなぁ！！でも注  
意してなめないとね！



# お祭りの風習



八坂アメ以外にどんな風習があるのだろう？

世良田さんに聞いてみよう！



ふむふむ、風習かい。

昔は7月1日からお祭りが終わるまで、地区の人たちは子供から大人まで清らかな生活をしなくてはならなかったんだ。

- ① 生きているものを殺してはいけない。
- ② 肉や魚など、生臭いものを食べてはいけない。
- ③ 生卵などを食べてはいけない。

④ 家族に死人が出ると、その家の人は「ボク」と言ってお祭りに参加できない。これを破ると、神様のバチがあたるといって、みんな気をつけていたんだよ。今でも身内の方が亡くなったりするとお祭りには参加しないなど、まだ一部の風習は残っているよ。



へ～そうなんだ。知らなかったね。



昔と今ではお祭りの考え方が変わってきているのかな？これも世良田さんに聞いてみよう！



昔と今では神様に対する考え方が変わってきているんだよ。

昔は毎日良い生活ができるのは神様のおかげと考えていたんだ。だから病気になったり、悪いことがおきるとすぐ神様にお参りに行ったんだ。お祭りは神様に感謝し、楽しんでもらうためにやっていたんだよ。今は病気になれば病院に行くようになり、お祭りも自分たちが楽しむためのお祭りに変わってきたんだよ。



屋台の彫刻・装飾の各部にはいろいろな名前がついているよ。



鬼板(おにいた)

唐破風(からはふ)



懸魚(げぎょ)

妻かざり

差鴨居  
(さしかもい)

木鼻(きばな)

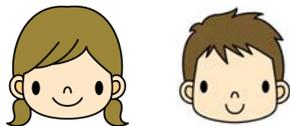
虹梁(こうりょう)

欄間(らんま)



欄干(らんかん)

腰羽目板  
(こしはめいた)



ガイドブック制作の感想です。

世良田祇園ガイドブック制作に6年生が参加できたことはとてもうれしいし、めったにできない貴重な体験だったのですごくよかったです。最後までガイドブック作りに真剣に取り組み、自分の役割を果たせたと思います。

祇園ガイドブック作りを通して、意外と知らなかった祭りについてくわしく知ることができたり、普段はやらないパソコンを使ってガイドブックの構成をやったりしました。他にも友達と協力して何かをやることや、色々な新しいことを学びました。ガイドブックで祇園まつりに来る人がもっと増えて祭り以外にも世良田のよさを知ってもらえればよいと思います。

ガイドブック作りをしたら、友達と祭りに行きたくなりました。講師の方々にアドバイスや祭りのよさを教えてもらったおかげでよいガイドブックができたと思います。世良田をアピールできるとよいです。

太田 紗彩



最初は、講師の先生の話からはじまりました。だんだん知識も深まってきて、あまり興味なかった祭りも、今は「必ず行く」という気持ちになってきました。八坂アメがおいしすぎて、八坂アメを買いに行きました。すごーくおいしかった。

田中 麻由



講師の先生の行動やししゃべり方などから、「昔のように地域を盛り上げたい、子どもの目で祭りをPRしたい」という気持ちが伝わってきて、「ぼくたちも頑張って取り組もう」と思いました。3学期の1月8日に、今井の屋台の見学に行きました。おはやしの演奏を聞いて、さらに気持ちを強く持ちました。

遠山 翔太

ガイドブック作りはすごい勉強になった。郷土への思いが深まった。前は、祇園まつりのことは何も知らなかったけど、今では祇園まつりの歴史のことがたくさん分かった。これからは、毎年祇園まつりに行くようにしたい。行っていない人にも声をかけて、行ってもらうようにしていきたい。

榎原 翔

この学習で地域の人との交流の大切さや、行事の楽しさがわかり、何か地域の行事があったら、いやがらず楽しんで地域の人との交流を大切にしたいなと思いました。

今まで頑張ってきた努力がパンフレットに全部つめこまれています。

石倉 桃子

ガイドブックを作っているうちに、「これは地域のために作っているんだ。」と思い、すごく重大なことだと思いました。これからは、教えてもらうのではなくて、教える方に回りたいと思います。世良田祇園まつりのことを教えてくれてありがとうございました。

シラッジ ヤシン



最初は、講師の先生の話はむずかしすぎて何を言っているかわからなくて理解ができませんでした。でも、回を重ねるごとに、意味が分かって来ました。屋台の見学では、屋台ごとに違うところがあって見ごたえがありました。今井の屋台は、他の屋台と違って色が塗られていないのでびっくりしました。

パンフレット作りをしてみて、最初のころはむずかしすぎてわからなかったけど、今は、物知りになった気がします。

小林 由宜



世良田祇園ガイドブック作りに参加できてとてもよかったと思います。この体験は一生の思い出になることだと思うし、私の家族にも自慢できることだと思うので、小学校最後の年にこのような貴重な体験ができてよかったです。また、私が生まれるずっと前の祇園まつりについても知ることができてよかったです。お年寄りにしか分からないこともあるんだと思いました。

丹羽 奈々



— 資料編 —

## 世良田八坂神社と世良田祇園まつりの歴史

世良田八坂神社は、昔は世良田の天王様（牛頭天王社・祇園牛頭天王社など）と呼ばれていた。慶応4年(1868年)、太政官達によって「牛頭天王」というような仏教用語で呼ぶことを禁じたので、京都の祇園社がその所在地の地名により「八坂神社」と改名した。これを機に、世良田の天王様も京都の例に倣って「八坂神社」と改名した。

「祇園まつり」は「八坂神社」のお祭りとして発祥し、その後、さまざまな変化はあったが、民衆主体のお祭りとして現在まで継続されてきた。

それでは「世良田八坂神社」と「世良田祇園まつり」はいつから始まったのだろうか。残念ながら、その発祥時期は定かではないが、いくつかの古い記録によって、発祥年代や当時のお祭りの様子などをうかがい知ることができる。

	資料・文献	制作年代	著者・作者	記述内容により想定できること
①	「永禄日記」	1565年	長楽寺住職 義哲	この頃にはすでに天王祭りが行われていた。(最古の記録)
②	文禄3年「検地帳」	1594年	太閤検地	世良田村に天王様(八坂神社)の社があり、天王東などの地名があった。
	慶長18年「検地帳」	1613年	同上	
③	「東関上野国新田郡世良田村牛頭天王の縁起」	1683年	総持寺住職 守一	天王祭りには神輿や屋台の記述があり、すでに現在のお祭りの原型が華やかに行われていた。
④	「上野国新田郷祇園殿記」	1772年～ 1778年	史学者 毛呂権蔵 (世良田村出身)	碓氷峠より東、館林より西、南は荒川、北は足尾山中より多くの人々が祇園まつりを見に来た。
⑤	「上野国新田祇園牛頭天王略縁起」	1773年	(世良田八坂神社の) 神宮寺関係者	8台の屋台が美しき事、世の人の見るがごとし、屋台の引違いあり

## 昭和 25 年代(1950)の世良田祇園まつり

この頃の祇園屋台の運行は毎年7月24日と25日におこなわれていました。

日付が6月30日から7月1日にかわると村のあちこちに「はっちょうじめ」と呼ばれるしめ縄が張られ、世良田祇園まつりは始まる。人々は我先にと八坂神社に参拝する。一番早く参拝した人には一番のご利益があると信じられていた。参道には名物の八坂アメを売る露店がならび、参拝帰りの人たちは、なめると病気になると言われたこのアメを買い求めた。これを「アメ買い」と称した。



(アメ買い風景 平成2年)

出典 尾島町誌

また、この日からまつりが終わる7月25日まで肉や魚や卵などを食べることや生き物を殺すことが禁じられた。これは「ボク」と呼ばれ、例えば、ニワトリが生んだ卵にさわることさえ許されなかった。また1年間の間に身内に死者が出たり、出産があった場合にも身に穢(けが)れがある「ボク」として、神に近づくことができないとされ、まつりへの参加を辞退した。

7月15日は隠居様(いんきよさま)のまつりだ。午後1時ころから隠居様のおみこしが世良田の各地区を練り歩き、最後に八坂神社の参道と国道354号の丁字路の端に設けられた御仮屋(おかりや)に置かれた。7月の世良田は忙しい。祇園まつりまでに農作業を終わらさなければならぬからだ。学校は農繁期のために休みとなり、子どもたちは田んぼで泥んこになりながら大人たちを手伝って、早くおまつりが来ないかと指折り数えて待ち望んだ。

7月23日の朝、たいこの音が鳴り響くと各地区で屋台の組み立てが始まる。屋台倉から

車輪や柱などを出し、大勢で組み立てるのだ。今でこそ屋台は組み立てたままで屋台倉に入れてあるが、昔はまつりのたびに組み立てていた。



(屋台組み立て 昭和53年 上町)

7月24日、朝早くから各家庭の主婦は大勢のお客を迎える準備で大忙しとなる。どの家にも百人近い見物客が、親戚の親戚、そのまた知人というふうには押しかけてきては泊まっていくので、夜中までうどんを打ったり、まんじゅうをふかしたり、キュウリモみを作らなければならなかった。まつり見物などとてもできるさわぎではなく、「世良田に嫁はくれるな」と言われていた。

一方、屋台のまわりには学校を終えた子どもたちが集まってきていた。一年で一番の楽し

みである祇園まつりを目の前にして、どの子ども飛び切りの笑顔だ。屋台によじ登って走り回る子、手すりにぶら下がりふざけ合う子…祇園まつりのこの時だけ、屋台は子どもたちの天国となる。



やがて日が沈むころ、屋台のおはやしが始まり、露店が八坂神社の参道を埋めつくす。移動サーカスが来たり、はやりのダンスパーティーが開かれることもあった。村の入り口に見物客を迎える臨時のバス停ができ、世良田駅には追加の改札口が6つも7つも設けられ、その日は東武鉄道は一晩中運転した。あたりが暗くなると子どもたちがたくさん乗った屋台のちょうちんに灯がともる。おはやしが夜空にひびき、道は見物客で足の踏み場もないほどだ。木の枝や電線などをよける

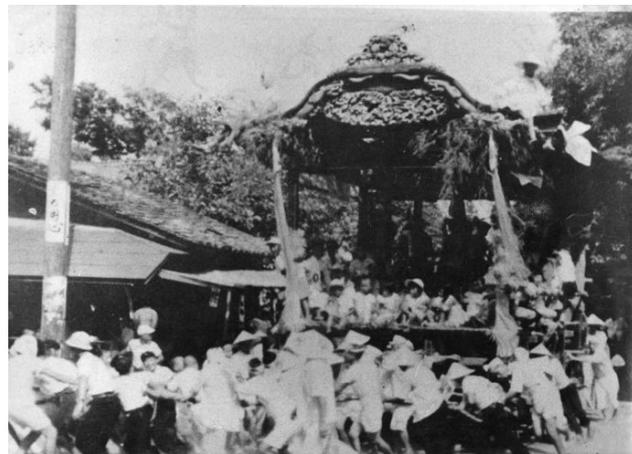
ため、屋台の屋根には男の人が乗っている。夜中の12時になると普門寺の鐘が鳴り、それにこたえて総持寺の鐘が鳴る。これを合図として、上町の屋台を先頭に、女塚、境村、三ツ木のお客屋台、続けて上新田、今井、大門、新町、南八の順に9台の屋台が国道354号を東の下町方面に向かい、下町と下新田の屋台がこれを迎える。これを「ひっさがり」という。下町に11台の屋台が全部そろると、今度は国道354号を逆の上町方面に向かう「おのぼり」の態勢になるため、下町の国道354号が広がっているところで屋台が順々にすれ違う「ひき違い」が始まる。(この場所は、今もそのままに道幅が広がっている)

このひき違いがまつり最大の見せ場である。おはやしは、ひき違う相手のおはやしに負けるものかと全身全霊でたいこをたたき、カネを打つ、笛の音は夜空を突き抜け鳴り響く。きしむ屋台のちょうちんの灯は赤く大波のようにゆれにゆれる。音と光と群衆を真夏の熱気が包み込み、まつりの渦は一気に最高潮へと燃え上がる。そこに居合わせるすべてのものがひとつの大きなかたまりとなり、東の空がようやく白くなるその時まで、輝きそしてうねり続ける…。



(深夜の屋台行列 年代不詳)

7月25日、朝の10時ころから屋台は再びはやし始め、国道を上町方面に向かう「おのぼり」が始まる。



(おのぼり風景 赤門前 年代不詳)

午後2時ころからは当住様（とうじゅうさま）のみこしが世良田の各地区を練り歩く。先頭に獅子頭を乗せた獅子屋台、そして子どもたちの稚児行列がみこしの後に続く。



（稚児行列 年不詳）

みこしは村のあちこちで大量の水をかけられ、その重さをズシリと増した。



（赤門前の当住様みこし 年不詳）

みこしの行列が長楽寺赤門の前に着くと、みこしは激しく上下にゆらされる。これを「みこしをもむ」という。

みこしが見事にもまれると観衆から一斉に拍手がわきおこる。

みこしが通り過ぎた地区から「ボク」は終わる。肉や魚を食べても良いわけだ。みこしの後をドジョウ売りが付いて歩く。人々はドジョウを買い求め、屋台もそれぞれの地区へと帰る。やがて、世良田祇園まつりは終わりを迎え、ひとびとはいつもの暮らしへと戻っていく。

#### 出典

あさお社

上州路 NO. 26、NO. 27、NO. 28

「世良田史話 世良田祇園の思い出」

著者 定方嘉津夫

## 世良田祇園まつりの今と昔

	今	昔
比較時期	平成24年(西暦2012年)頃	昭和25年(西暦1950年)頃
お祭り組織	八坂神社(八坂総代)	八坂神社(八坂総代)
	各地区行司	各地区行司
	世良田祇園まつり実行委員会	
お祭り参加地区	(世良田全地区の祭り) 上町・上新田、今井、新町、大門、 南八、下町、下新田、下原、 小角田、出塚新田、出塚本村、 徳川、粕川、粕川住宅	上町、上新田、今井、新町、大門、 南八、下町、下新田、下原、粕川
お祭りの開始	7月1日 初寄合 一部の地区で八丁じめ	7月1日 八丁じめ、初寄合 「ボク」の開始
隠居様神輿の渡御	7月15日に近い日曜日 (午後1:00～午後5:00)	7月15日 (午後1:00～午後5:00)
屋台組立	不要(組立完成保管)	7月23日 地区総出で組立
開催日(本祭り)	7月第4土曜日と翌日曜日	7月24日、25日
屋台台数	8台(客屋台は無し)	11台(女塚、境村、三ツ木の 客屋台を含む)
屋台運行時間	土曜日(午後5:00～午後10:00)	24日(午後5:00～午前0:00) 25日(午前0:00～午後5:00)
屋台運行経路	八坂神社→(市道)→世良田 公園→八坂神社	上町→(国道354)→下町→ 南八→新町→大門→上町
当住様神輿渡御	日曜日(午後1:00～午後5:00)	25日(午後1:00～午後5:00)
推定観客動員数	1万人	10万人以上
屋台壊し	不要(組立完成保管)	26日

# 世良田祇園屋台 修理・制作年代等一覧表

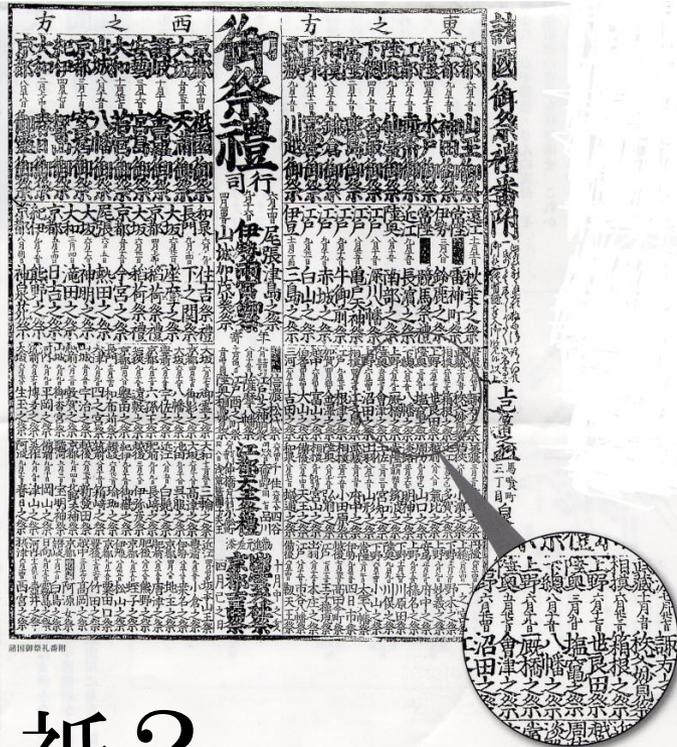
指定区分 : 太田市指定重要有形民俗文化財

No.	地区	修理年度	制作・修理年代	制作者
①	上町	平成18年度 (2006年)	明治15年(1882年) 修理	高澤个之助(彫物師) 尾島村 石原元次郎(大工) 大門町 笠原定治郎(木取) 山洞倉吉(塗師) 勢多郡高泉村、 茂木秋三郎(塗師) 世良田村 久八(飾金具) 中里村
②	新町	平成18年度 (2006年)	文政4年(1821年) 制作	羽鳥常右衛門(棟梁) 武州飯積村
③	大門	平成19年度 (2007年)	不明	
④	下新田	平成19年度 (2007年)	不明	
⑤	南八	平成20年度 (2008年)	明治21年(1888年) 修理	城田福太郎(棟梁) 中村年雄(絵師) 太田街 長谷川善蔵(塗師)
⑥	上新田	平成20年度 (2008年)	安政3年(1856年) 制作	音八郎(彫物師) 湊名
⑦	今井	平成21年度 (2009年)	元治元年(1864年) 制作	長谷川竹次郎(棟梁) 世良田村 岩吉(彫物師) 武州比企郡明戸村
⑧	下町	平成21年度 (2009年)	安政4年(1857年) 修理	吉次郎(棟梁)、定吉(彫物師) 幸右衛門(塗師)、中村林助(絵師) 太田横町

※注 太田市指定重要有形民俗文化財である世良田祇園屋台8台は、平成18年度から平成22年度にかけて、太田市が保存修理を実施した。総事業費は85,575,000円であった。

# お祭り一口メモ

世良田祇園まつりが「関東の三大祭のひとつ」だったというのは本当？



昔から「世良田祇園まつり」は東京神田「明神祭り」と埼玉秩父の「妙見まつり」と共に「関東の三大まつり」と言われておりました。

この「諸国御祭礼番付」は江戸時代に作られた全国のお祭りの番付表ですが、この中で「上野 世良田祭」が「世良田祇園まつり」のことです。東日本の夏祭りでは三位、群馬県では一番のお祭りとしてランク付けされています。天下に誇れるお祭りだったということがわかります。

## 祇？

「世良田祇園」と「世良田祇園」どちらが正しいの？

どちらも間違いではありません。示偏の「祇園」は昔から使ってきた文字です。

しかし最近では新しいネ偏の「祇」を多く使うようになってきました。

実行委員会では「世良田地区の全区民が参加する新しいお祭り」という意味を込めて、新しいネ偏の「世良田祇園まつり」としております。

# 世良田祇園まつり実行委員会とは？

8 台の屋台の修復工事が完了したのを機に、世良田祇園まつりを復活しようとして、平成 22 年 11 月に世良田祇園まつり実行委員会が発足した。

実行委員会では世良田祇園まつりを世良田地区全ての人が参加する地域のお祭りとして位置づけ、屋台行列のお祭りの企画から準備・実行までを担当する。

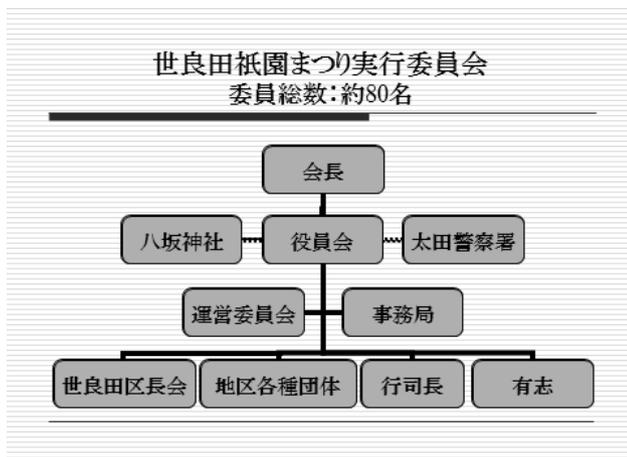
その構成は世良田地区区長会、行司長会、地区各種団体や有志からなり、約 80 名の委員により運営されている。

実行委員会が主催した世良田祇園まつりは平成 23 年 7 月に第 1 回が開催され、翌年の平成 24 年度には約 60 年振りに全ての屋台を一堂に集め、多くの観客を集めることができた。

今後も地域の活性化をめざし、よりよいお祭りづくりに向けて活動している。

## 実行委員会の主なる活動内容

- ①世良田祇園まつりの計画立案
- ②お祭り会場の設営と撤去
- ③お祭りの執行
- ④安全・警備活動
- ⑤広報活動
- ⑥資金・募金活動
- ⑦お祭り育成・支援活動
- ⑧地域交流活動
- ⑨その他



## 世良田を愛する子どもたちに

太田市立世良田小学校  
校長 川上 みさい

絢爛豪華な8台の屋台、心躍るお囃子、地域の方々の世良田祇園まつりを守り続ける取り組み・・・世良田の地の素晴らしい文化や意気込みを感じながら、心豊かな子どもたちの育成をめざしておりました。

その様な中、世良田祇園まつり実行委員会よりガイドブック制作のお話をいただきました。6年生は、貴重な体験を与えていただき、次代の世良田を担うための素地ができたように思います。

ガイドブック作成にあたっては、子どもたちの興味・関心や疑問を大切にいただきながら、講義や現地見学の計画をたてていただきました。地域の方々とのふれあいはもちろんのこと、世良田祇園まつりの歴史や屋台のすばらしさを理解した子どもたちは、幸せ者です。

このガイドブックが子どもたちと地域をつなぐ大切な宝物になることを期待して、あいさつとさせていただきます。

## 作成者名簿

6年1組		
新井愛望	新井悠斗	荒木香夢唯
池田 颯	内田颯太	太田紗彩
柿沼樹那	川島奈々	菊池隆史
清水柚希	城田瑠花	鈴木駿介
須永愛深	丹羽奈々	橋本菜月
橋本大輝	原名拓海	福田 翔
星野将輝	山鹿未唯	山口翔音

6年2組		
石倉桃子	梅野 駿	岡田將哉
河田静羽	神田晃宏	栗原裕真
後藤祐介	小林麻鈴	小林由宜
シラッジヤシン		田中杏果
田中麻由	玉田明日香	遠山翔太
檜原 翔	松島弘汰	松島龍司
水澤滉成	三友 茜	村岡由衣
毛呂太陽	山岸葉音	

6年学年主任	田野辺 恵
6年1組 担任	小山 朋代
6年2組 担任	田部井 雅行
小中連携サポート	野本 健司
I C Tサポーター	真下 名菜

## 世良田祇園まつりガイドブック作成プロジェクト（順不同・敬称略）

講師 小此木実次（歴史全般） 楯原 宗雄（歴史全般） 金子 豊吉（屋台構造）

### 世良田祇園まつり実行委員会

会 長	相澤 邦衛	副 会 長	高橋 勝美	会 計	茂木 一治
事務局長	田島 征男	副事務局長	斎藤 篤		
運営委員	高橋 弘二	運営委員	原名 剛志		

### お世話になった方々（順不同・敬称略）

上町の皆さん、上新田の皆さん、今井の皆さん、大門の皆さん、新町の皆さん、南八の皆さん、下町の皆さん、下新田の皆さん、今井区おはやし同好会の皆さん、栗原修一（道具）、定方 晟（資料）、定方四朗（写真）、定方雅彦（資料）、諏訪隆志（ビデオ）、高橋克明（写真）、高橋信雄（写真）、本川光弘（写真）、太田市教育委員会 須永光一（写真、資料）、長楽寺（資料）

### 参考文献

- ・「世良田史話 世良田祇園の思い出」定方嘉津夫 あさお社
- ・「八坂神社大祭記」吉野太市
- ・「世良田八坂神社の祇園祭」金子緯一郎 尾島町誌下巻
- ・「目で見ると 太田・館林・邑楽の100年」郷土出版社

— 世良田小学校の児童が紹介する —

## 世良田祇園まつりガイドブック

平成 25 年 3 月 26 日

発 行 者

世良田祇園まつり実行委員会  
事務局（世良田行政センター内）  
電 話 0276-52-1002

発行協力  
裏表紙絵  
後 援

太田市立世良田小学校  
太田市立世良田小2年 青木未来  
太田市教育委員会

印刷・製本 有限会社 第一写植印刷